

都市再生整備計画(第6回変更)

なかまるこ かみまるこ ちく
中丸子・上丸子地区

ながのけん うえだし まるこまち
長野県 上田市(旧丸子町)

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	上田市(旧丸子町)	地区名	中丸子・上丸子地区	面積	85 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

緑の風がこだまする水辺の街丸子ネットワーク事業 ～水と緑を活用した賑わいと憩いの創出～

- ・歴史ある工場跡地の有効利用
- ・商業拠点との一体的な発展
- ・人と物が回遊する依田川周辺道路(遊歩道)の整備
- ・災害に強い都市基盤の整備

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

当該地域は、平成8年に撤退したカネボウ(株)が所有していた土地(10万㎡)を有し、その利活用にあたっては、長野県の子ども未来センターの誘致や民間企業への分譲など公益的な有効活用を模索している地域である。平成11年度に旧丸子町土地開発公社がカネボウ㈱から土地を第1次取得し、平成12年度に第2次取得をする。取得した土地の有効活用としては、町内優良企業の移転、まるこベルパーク公園整備、中丸子保育園、区画道路整備が完成した。また、平成16年度からは上田地域広域連合による特別養護老人ホームの建設が民設民営で計画されている。(土地は市が無償で提供)平成17年度にはテナント式商業地の整備が予定されている。また、既存の商店街とこの地域を含めた中心市街地活性化基本計画の策定を平成16年度中に策定し、この地域の魅力を高めることで既存商店街の活性化にもつなげたい。

依田川右岸の堤防沿いには、水とみどりのネットワーク依田川右岸自転車歩行者道路があり、平成3年度から13年度までの間で延長約6kmが完成し、朝夕には健康づくりにウォーキングをしている方の姿も多く見られる。依田川左岸には平成15年度に依田川左岸道路が完成し、車両交通の利便性が上がるとともに、依田川河川を回遊できる歩道整備も促進された。なお、平成16年5月には依田川左岸道路沿いに農産物直売加工センターが完成した。また、県道荻窪丸子線道路改築事業「辰ノロバイパス」が長野県により整備される予定である。

丸子地域を南北に流れる依田川は、千曲川の支流として、最大の水量と最長の流路を有し、古くは製糸産業の繭糸の精練に使われ、現在でも工業用水として利用される。このほか、6月から8月にウグイや鮎漁が行われ、県内外から太公望が訪れる。8月の中旬には依田川を疾走するイベント『爆水RUNin依田川』も開催され、夏の1日、川に親むイベントとして定着している。依田川は利水、治水のほか親水空間として住民に親しまれている河川である。

また、まるこベルパークは緊急災害時等のヘリポートとしての機能を有し、今回整備する給食センターは災害時の食料品等の備蓄・調達基地として災害時の炊き出し施設となるなど、当該地域は防災拠点として重要な役割も担っている。

課題

旧丸子町が取得したカネボウ(株)工場跡地は土地利用が進む中で、地域の活力と少子高齢社会に対応できる賑わいと憩いがバランスよく整備される丸子地域の中心市街地となる地域であり今後の活用が注目され、その整備が必要とされている。さらには、既存商店街の活性化に結びつけるような施策の展開も必要となっている。また、身近な健康管理としてウォーキングが注目され、当町でも愛好者は増えており、安全に楽しく歩くことができる遊歩道の整備も必要となっている。

将来ビジョン(中長期)

- ・歴史と文化の息づくカネボウ(株)工場跡地を整備していくことで賑わいと憩いの場として創出され、既存商店街の活性化とも相乗効果を図り、交流人口の増加につなげる。
- ・依田川沿いの堤防や遊歩道に回遊性を持たせることで、各施設間の連絡や連携を図るばかりか地域住民の健康福祉の増進にもつなげる。

旧第5次丸子町振興計画後期基本計画では、
・中心都市機能充実、安全で快適な都市環境として
「カネボウ跡地の活用」及び「丸子リパフフロントふれあいの社整備事業の展開」が記載されており、カネボウ跡地の有効活用と依田川・内村川を活用して、水と緑の回遊歩道と親水公園の整備を目指します。

目標を定量化する指標

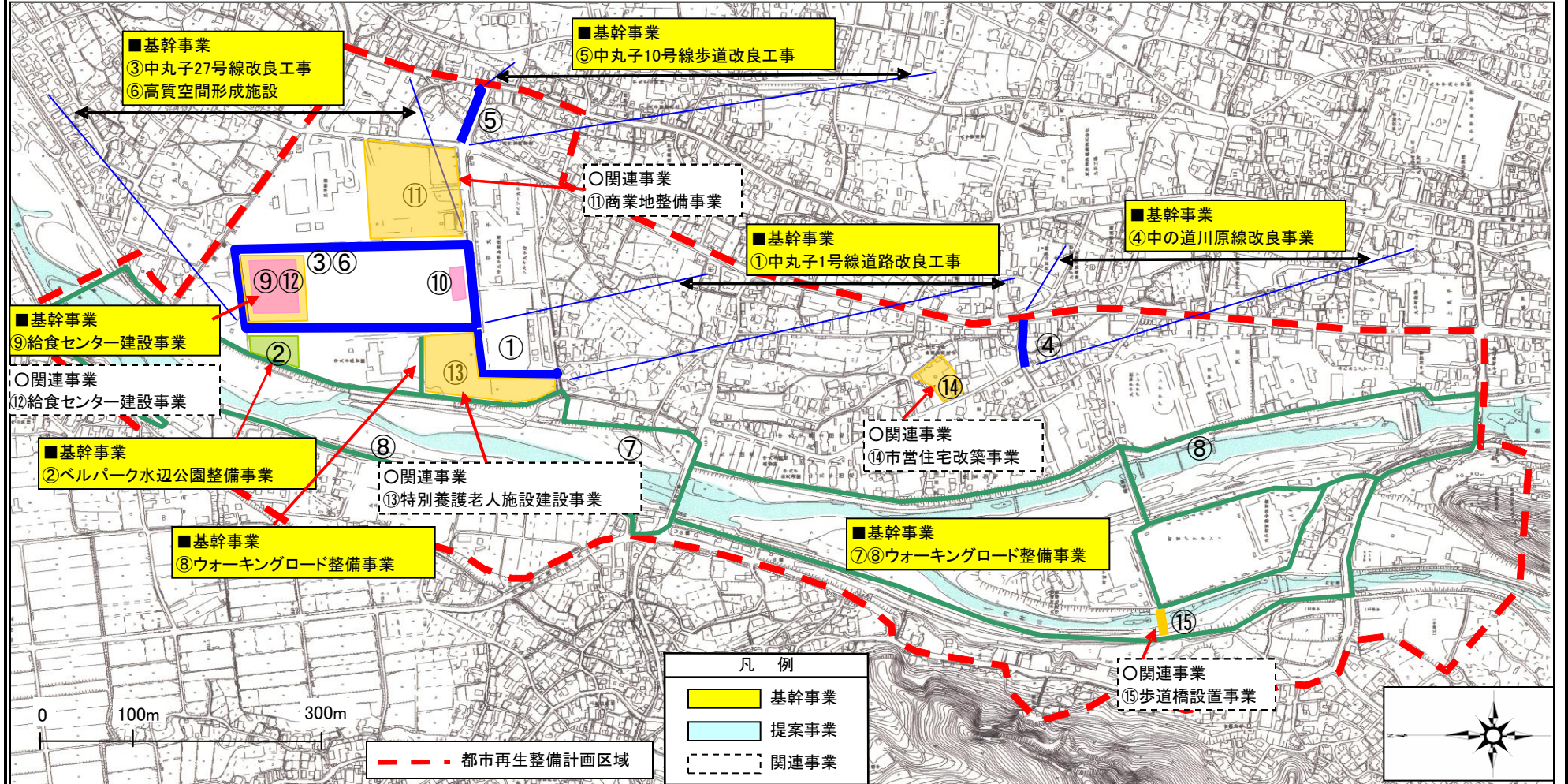
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				年間	基準年度	年間	目標年度
商業地に集う集客数	人	利用状況調査(商工観光課による)	市道中丸子27号線等の整備を行うことで予定されている商業地への集客数が増えることが期待される。 <small>(隣接商業施設利用客数)</small>	年間80万人	H15	年間100万人	H21
公園の利用者数	人	利用状況調査(都市整備課による)	水辺公園を整備し既存のベルパークと一体となった利用が期待される。1日平均約50人で300日	年間12,000人	H15	年間15000人	H21
遊歩道に対する住民満足度	%	アンケート調査	遊歩道の整備後に満足度を感じる利用者の割合	60%	H15	80%	H21
旧カネボウ跡地有効活用の面積	㎡	旧カネボウ跡地活用の促進(産業観光課・地域振興課)	活性化に寄与する土地の有効利用	50,893	H15	80,000	H21

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・カネボウ(株)工場跡地については、敷地内に区画道路を整備することにより、隣接する企業の従業員や商業地への来場者の安全の確保を図る。また、水辺公園を整備し子供から老人までが憩える環境整備を図る。なお、給食センターについては、災害時を想定して当地域の人口10%の非常用食確保が可能な施設であり、市内の学校施設への給食の供給だけでなく、災害時の炊き出し施設として、地域防災上重要な施設と位置づける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市道中丸子27号線道路改良工事(基幹事業) ・ベルパーク水辺公園整備事業(基幹事業) ・給食センター建設事業(基幹事業) ・商業用地整備事業(関連事業) ・特別養護老人施設建設事業(関連事業)
<p>・カネボウ(株)工場跡地が今後中核的な地域となることから、当該地域へのアクセス道路を良くし賑わいと交流を増やす。さらに、当該地域には、公営住宅の改築も予定されており、定住人口の増加も図られ、定住者の利便性も考慮した道路整備を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市道中丸子1号線道路改良工事(基幹事業) ・市道中の道川原線改良工事(基幹事業) ・市営住宅改築事業(関連事業)
<p>・依田川を一つの河川公園と位置付け、カネボウ跡地の賑わいと憩いの整備と一体的に進めることよって潤いと安らぎの河川空間の整備を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・依田川ウォーキング道路整備事業(基幹事業) ・歩道橋新設事業(関連事業)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度には、当該地域周辺を範囲とした中心市街地活性化法に基づく基本計画が策定される。 	

中丸子・上丸子地区(長野県上田市) 整備方針概要図

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある工場跡地の有効利用 ・商業拠点の一体的な発展 ・人と物が回遊する依田川周辺道路(遊歩道)の整備 ・災害に強い都市基盤の整備 	代表的な指標	商業地に集う集客 (人/年)	80万人 (H15年度)	→	100万人 (H21年度)
			公園の利用者数 (人/年)	12,000人 (H15年度)	→	15,000人 (H21年度)
			遊歩道に対する住民満足度 (%)	60.0% (H15年度)	→	80.0% (H21年度)



まちづくり交付金の客観的評価基準の確認シート

都道府県名	市町村名	地区名
長野県	上田市	中丸子・上丸子地区

I. 目標の妥当性

①都市再生基本方針との適合等	チェック欄
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 (該当するものに○) ①. 中心市街地活性化 ②. 防災 ③. 少子高齢化 ④. 人口定着 ⑤. 観光・交流 6. アメニティ 7. 交通利便性 8. 都市活力 9. 地域コミュニティ 10. その他	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) ①. 市町村総合計画 ②. 都道府県長期計画 ③. 都市再生緊急整備地域 4. 構造改革特別区域 ⑤. 地域再生計画 ⑥. 全国都市再生モデル調査 7. 被災市街地 ⑧. 中心市街地活性化計画 ⑨. その他(地域防災計画)	○
②地域の課題への対応	チェック欄
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	チェック欄
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	チェック欄
1) 十分な事業効果が確認されている	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	チェック欄
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑦円滑な事業執行の環境	チェック欄
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

【記入要領】

- ・都市再生整備計画の記載内容が、確認シートの各項目に該当する場合は、チェック欄に○を記入する。
- ・(該当するものに○)の項目は、都市再生整備計画の記載内容が該当する項目の番号を○で囲む。